

市民の皆さんとの「5つの約束」の実現に向けた 平成21年度の取り組み状況をお知らせします

市では、市長と市民の皆さんとの「5つの約束」を実現するため、各種施策に取り組んでいます。ここでは、平成21年度に行った主な取り組みをお知らせします。

「市民が主役」のまちづくりに向けて



行田市長
工藤 正司

少子高齢化の進展や長引く景気低迷の影響などにより、本市を取り巻く環境は依然として厳しい状況にあります。

私は市長就任以来、「市財政の健全化」を最重要課題に掲げるとともに、透明で信頼される市政を推進しながら、まちづくりの基本を「ハードからソフトへ」、「行政主導から市民主導へ」と転換を図り、各種施策に情熱を持って取り組んでまいりました。

平成21年度におきましては、これまでに行ってきた事業を拡充させるとともに、地域活性化や市民参加促進のための新たな事業を展開してまいりました。

今後とも、豊かな地域資源を有効に活用し、市民の皆さんの声をお聴きしながら、「市民が主役」の新しい行田をつくるため、各種施策に全力で取り組んでまいりますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

行財政運営の健全化

■市の借金（市債）を削減

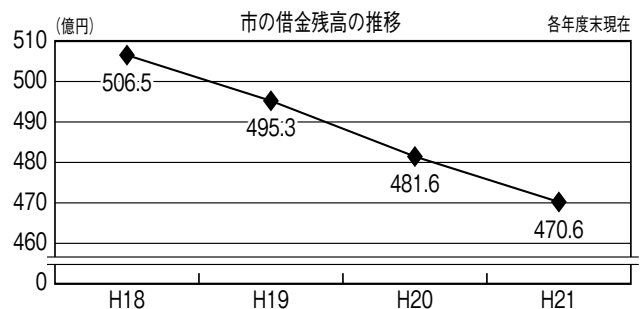
新たな借り入れの抑制や過去に借り入れた高金利の市債の繰上償還の実施など、市債残高の削減を図り、平成21年度末には平成20年度末と比較して全会計で約11億円を削減しました。

■既存施設の活用最優先

旧行田女子高校跡地に平成23年4月、埼玉県立総合教育センターがオープンする予定となっており、現在、急ピッチで工事が進められています。市ではグラウンドや体育館といった体育施設の開放など、市民の利用に向けた県との協議を進めています。

■市民参加による未来のまちづくり

平成23年度からの「第5次総合振興計画」の策定に向け、これまで行政に声を届けるきっかけがなかった市民の皆さんが、市の課題やあるべき姿について、市職員と共に話し合う「ぎょうだ夢づくり会議」を全5回にわたり開催しました。参加した市民からは「行田市の方向性を決める活動に参加できてよかった」、「今回の提案事項が、今後どのように生かされていくのか楽しみ」、「夢で終わらせず、ぜひ実行に移してほしい」などの感想をいただきました。



工事の進む旧行田女子高校跡地